

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三方原担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 8 年 3 月 5 日（木） 13 時 30 分 ～ 15 時 00 分
2 開催場所	初南コミュニティホール
3 参加者	35 名 協議体委員 18 名（地域 10 名、事業所等 8 名） 関係機関 17 名（高齢者福祉課 3 名、長寿支援課 2 名、長寿保険課（北）1 名、コミュニティ担当 2 名、包括三方原 2 名、包括サテライト都田・新都田 2 名、市社協浜松地区センター 3 名、市社協北地区センター 1 名、市社協地域支援課 1 名）
4 協議内容	
1 開 会 2 挨拶 三方原圏域生活支援体制づくり協議体会長 3 令和 7 年度 第 2 回協議体会議の振り返り *別添：第 2 回協議体会議開催報告書、第 2 回協議体グループワークご意見シート参照 4 協議内容 ① 令和 8 年度の本圏域協議体について ➡高齢者福祉課より 区の再編により、圏域内に区境が生じており、これを解消するために、今後は三方原と都田・新都田の 2 つの協議体に分かれて活動する。 については、委員の皆様にご了解いただきたい。 ② 今後の取り組み（テーマ） ・三方原と都田・新都田の地域課題を踏まえて決めていく。 ・今年度話し合った生活課題についても課題解決に向けて話し合いを深めていきたい。 ③ 協議体委員の構成について ・現委員を軸に検討する。 ④ その他 令和 8 年度第 1 回三方原圏域生活支援体制づくり協議体会議を令和 8 年 7 月頃に予定し、令和 8 年 5、6 月頃に圏域共有会議を開催して、委員などについて話し合う。*後日、三方原と都田・新都田圏域の担当者が日程等を調整	
5 閉 会 三方原圏域生活支援体制づくり協議体副会長	
6 今後の見通し・必要な対応	<<今後の課題>> 近い将来、本圏域がどのような地域に変化するか予測し、どのような生活支援体制づくりが必要になるか、三方原と都田・新都田の地域事情を踏まえ、取り組みを検討していく。

(三方原グループまとめ/記録用)

- ・協議体とは
介護保険の中での位置づけ、地域支援事業
- ・協議体⇔S Cの設置、協議体実施 浜松市⇒市社協
- ・この地域をどうしていくかを話し合っていく会議体
- ・助け合いを進めていくためにはどうしたらよいか？
- ・ネットワーク、広がり
- ・若い世代と高齢世代をつなげていく試み
- ・最終目標⇒結論をだすだけでなく、ネットワークを活用して、すすめていく
- ・それぞれから持ち寄った課題、問題⇒意見をもらいながら⇒自分のところで試みる
- ・予算、財源⇒C S W予算：わずかな予算（消耗品程度なら買える）
- ・市社協、地区社協でできること、コミュニティー協議会でできること、
⇒コミュニティー協議会では見えない部分
- ・出てきていない人、枠が広がる⇒出てこない人をどうする？
- ・外出しない人をどう社協と結びつけるか
- ・民生委員の対象は、全世代⇒コミュニティー協議会、地区社協
- ・未来性が重要
- ・現職の民生委員など⇒次の担い手⇒課題
- ・現場での出来事を教えてほしい
- ・三方原地区の外国人
- ・広かれた会議であるべき
- ・今足りてない部分⇒あったらいいね
- ・地域福祉が大きなテーマ
- ・シニアクラブの方々も参加してもらおう
- ・コミュニティー協議会とかわりない
⇒問題提起
⇒現場の方がいるので、もっと活用してほしい
- ・家からでない人を⇒地域づくりに⇒情報がない
- ・見えてない部分⇒見える化
- ・課題を絞った方が
- ・三方原のことを皆さんと考えていきたい
- ・一人の生活問題を⇒様々な立場の人が考える
- ・顔の見える関係づくり
- ・外国人の相談⇒少ない

(都田・新都田グループまとめ/記録用)

- ・第1回目の協議体で「生活支援体制づくり協議体」の目的を説明してほしい
 - ・協議体のねらい⇒地域づくりや地域の情報を共有し検討する場
 - ・協議体の話し合いのフィードバックがほしい。話しているだけだとモヤモヤする
 - ・小さなゴール⇒例えば、新都田の公園でのラジオ体操の参加者拡充について協議する
 - ・2つに分かれたメリット、小規模になったからこそ出来ることをあげていく
 - ・自治会、民生委員は必要なのか？どの会議に出席しても顔ぶれが一緒
⇒同じような会議体をひとつにまとめる事で、有意義になるのでは？
 - ・都田アソシエイツなど、企業にも呼びかけをしていけないか
 - ・新都田は外国人の人口が多いため、ゴミ出しの課題が散見されてきている
⇒外国人のリーダー的な方に協議体に参加してもらおうことができないか
 - ・外国人の介護保険の相談、申請は少ない
 - ・子どもの関係は、主任児童委員等に参加してもらおうと課題をあげてもらえるかもしれない
- い

- 昔はスポーツ少年団があったが、現在は少なくなった。
⇒担い手の発掘ができない
- さなる・むぎ進学塾が撤退したため、塾難民が一定数いる
⇒地域課題。寺子屋の開催などを協議体で話すことも小さなゴールになり得る
- 常葉大学の学生も参加を呼びかけられないか